

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

・国語の正答率は、全国平均と比較してみると同等の力がついていると考えられます。「読むこと」においては、わずかではありますが平均を上回っており、「読むこと」に対する関心や能力の高さが感じられます。一方で、「言語文化に関する事項」においては、課題がみられます。また、「話すこと」の学習で、伝わりやすいスピーチの工夫を考えることができなかった生徒が多く、無解答率も高いことが分かります。

・数学の正答率は、全国平均との比較では、全体的に若干下回っています。また、無解答の割合が多い問題もあることが分かります。領域別では、「データの活用」においては全国平均より若干高い数値を示していますが、「数と式」においては、全国平均より低く、課題が見られます。

・理科の正答率は、全国平均との比較では、全体的に下回っていると考えられます。また、無回答率については全体的には低いことが分かります。領域別では、「気象観測のデータを用いた推論、考察」「力の大きさとばねの関係」においては全国平均より若干高い数値を示していますが、「状態変化に関する活用」においては、課題が見られます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・本校の生徒は、「友達と協力するのは楽しいと感じている」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」「人が困っているときは、進んで助けている」等の項目において当てはまると回答している生徒の比率が高く、落ち着いた学校生活を構築する上で重要な役割を担っていると考えられます。

・読書時間は、全国平均よりも長く、毎日の朝読書の意義が生徒の中に定着しており、自ら進んで読書に取り組む姿勢が育っていると読み取れます。一方、ゲームやスマートフォンの利用時間が全国平均よりも長くなっていることは改善されておらず、基本的な生活習慣を見直す必要があります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

・各教科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳をはじめとして、日常生活の中で、「言語活動」による指導をより積極的に取り組み、特に「自分の考えをまとめる」力及び、「自分の考えを発表する」力を育成するように計画していきます。

・ICT機器の利用を授業の中で一層促進し、自ら積極的にICT機器を利用して学習する力や情報モラルに留意しながら利用する力を育成していきます。

・家庭学習の定着のために、授業時間での振り返りの時間を大切に、「家庭で学習する内容」を明確にし、主体的で深い学びにつながるように継続して指導していきます。

・国語では、読書活動の指導を継続すると共に文章を要約し、その内容を仲間に伝える活動を取り入れることにより、表現力を高めていく指導をおこないます。

・数学では、基礎基本である「数と式」の指導を継続して取り組み、文章問題の読み取りを含めて、思考力・判断力・表現力の育成に力を入れていきます。また、その他の教科においても仲間との学び合いの活動を取り入れ、生徒自ら学ぶ姿勢を育成します。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

・家庭学習を行うために、学習する環境作りにご協力ください。

・スマートフォンやゲームの利用について家族で話し合い、ルールを確認してください。

・1日の出来事など、家庭で話す時間を週に一度は作ってください。